opusdei.org

属人区長の書簡 (2010年5月

オプス・デイにおいて祝っているマリア年のさなか、聖母に特別に捧げられた5月を始めます。

2010/05/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

オプス・デイにおいて祝っているマリア年のさなか、聖母に特別に捧げられた5月を始めます。私たちの心

と想いはすぐに神の御母であり私た ちの母である聖マリアに向かい、そ の取り次ぎによって絶えず頂いてい る数知れない恵みに対する感謝を捧 げます。その取り次ぎの中には、 はっきりと分かるものがある一方、 私たちが気付かないものもありま す。しかし、確かなことは、その御 母をもっと称えるために、神は、常 に御子と緊密に一致し御子の元にお られる聖母を通して、恩恵という宝 を私たちに与えようと望んでおられ るのです。ヨハネ・パウロ二世は第 二バチカン公会議のある文書に言及 し「マリアの母としての仲介が、キ リストの唯一無比の仲介に影を落と すようなことはありません | と説明 されました。そしてこう加えられま した。「キリストによる唯一の仲介 を妨げるどころか、マリアはその豊 かさと実りをいっそう際立たせるの です。| [i]

余談になりますが、これからの数日は具体的に、来る8日の聖エウジェニオ教会での叙階式で司祭叙階の秘跡を受ける32人の兄弟たちのことを聖母に感謝しましょう。彼らと全ての司祭のために聖母に祈りましょう。

キリスト教の霊性の歴史は、聖母が ご自分の子供たちに対して、その特 別な恵みを通して示された母として の保護を物語る出来事であふれてい ます。聖ホセマリアが繰り返し祈っ ていた、最も古い聖母への祈りであ るSub tuum præsidium(「終業の 祈り」)は、3世紀にさかのぼる祈 りであり、確かな信頼を表現してい ます。「天主の聖母のご保護により すがりたてまつる。いと尊く祝せら れ給う童貞、必要なる時に呼ばわる を軽んじ給わず、かえってすべての 危うきより、常に我らを救い給 え。| [ii]

聖マリアが私たちと共にいてくだ さったおかげで、これまでの人生に おいて主との親密さを深めることが できたことを、私たち皆が経験して きました。それゆえに、また聖母を 凌駕する被造物は何もなく、彼女に 優るのはただ神だけですから、私た ちはその絶えざるご保護にふさわし い感謝を捧げることも、またふさわ しく称えることも決してできないで しょう。聖ホセマリアは、キリスト 教の伝統を引き継ぎ、こう表現され ました。「これまでの神学は、神の 御母へのキリスト者の愛を次の一言 に要約しました。 〈de Maria, nunguam satis〉(マリアについて は、十分には決してできない)。至 聖三位一体の第二のペルソナに人と しての血と肉を与えた御方の尊厳に ついて、どれほど言葉を尽くし筆を 尽くしても、十分とは言えないで しょう。」[iii]

このような考え方に基づいて、今月 の間、世界中でマリア信心が輝かし く花開きます。私たちの場合、特に 愛情を込めて私たちの御母と付き合 うように促す特別な理由が色々とあ ります。私が触れたいのは、今月記 念する二つの記念日です。すなわ ち、1935年のソンソーレスへの創立 者の初めての巡礼と、1970年のグァ ダルーペの聖母の元での九日間の祈 りです。感謝に満ちたこの思い出 は、すでにオプス・デイの歴史の一 ページとなり、ベネディクト十六世 が指摘されたことを考察するよう私 たちを促します。「神の御子が人と なられたことで、永遠が時間のうち に入りました(…)。言わば、時間が 神の御子でありマリアの子であるキ リストによって『触れられた』ので す。そして、キリストから新たな驚 嘆すべき意味を受け取ったのです。 すなわち、救いと恩恵の時間となっ たのです。 | [iv] それゆえ、教皇様 はこう結論づけられました。「人生

における様々な出来事には重要なものやそうでないもの、単純なことや難解なこと、喜ばしいことや悲しいことがありますが、その全てを救いに関連づけ、神が私たちを時間の彼方の遙かな目標である永遠に向けて導くために与えられたものとして受け入れるべきなのです。」[v]

先ほど取り上げた私たちの歴史における二つの日付は、人間の歴史、具体的には、教会の一部であるオプス・ディの歴史に神が〈入られた〉ことを明白に表しています。

明日75周年を迎える1935年5月2日に、霊的に素晴らしい実りを多く生み出した〈五月の巡礼〉の習慣を聖ホセマリアが始められました。それ以来、多くの人たちが聖母に、親しみを込めて子供としての愛情を捧げることを学びました。今月は、この聖母訪問により多くの友だちが加わるよう働きかけることに努めるよう

皆さんに勧めます。教会と、その子供たち一人ひとりを熱心に見守ってくださっている聖母に感謝を捧げたいと思います。

私たちは、子としての聖マリアへの 愛情を人々にも伝えたいと思ってい ます。五月の巡礼に、知り合いや友 だち、そして、親戚を誘うことは、 聖母がご自分の子供たちに与えられ る喜びと平和を、その人たちが発見 する機会となるはずです。多くで男 女が、毎日ロザリオを唱える習慣を 持つようになればと願っています。 体面を気にせずに、このような会ま を始めようと堅く決意しています を始めようと堅く決意しています か。マリア様への愛が、人々いる 望むほどに私たちを動かしている しょうか。

今月は、私たちの家族にとって非常 に意義深いもう一つの記念日を迎え ます。創立者がグァダルーペの聖母 に祈るためメキシコに旅行されて40 年になるのです。1970年5月1日、こ の旅行を決意したことを聞かされた 時、そばにいた私たちは驚くと同時 に喜びに満たされたものです。すぐ に旅行に必要な手はずを整えるよう 指示され、5月15日の早朝、メキシ コの地を踏まれたのでした。教会と 教皇、そして人々への愛に動かされ て、心にあった全ての意向を聖母の 手に託そうと望まれたのです。この

ことを、「パドレは何をお願いすると思いますか。全能の嘆願者である私たちの母聖マリアの足元で、世界の平和、そして、教会とオプス・ディと子供たち一人ひとりの聖性をお願いするのです」[vi]と説明されました。

アメリカ大陸に向かう飛行機に乗ら れている時から、創立者が深く潜心 しておられることが分かりました。 メキシコ・シティーに着くやいな や、午前3時だったにもかかわら ず、すぐにグァダルーペの聖母の前 で祈ることを望まれましたが、まだ 大聖堂は閉まっており、それはでき ないことでした。しかし、高度と時 差の影響を気にしていた医師と息子 たちが外出の許可を与えると、すぐ に数人の息子に伴われて〈ヴィラ〉 (グァダルーペの大聖堂) に移動さ れました。メキシコ・シティーでの 最初の外出でした。ご聖櫃のイエス に挨拶した後、内陣にひざまずき、

かれこれ1時間半も祈りに潜心されました。この間に教会は、創立者と共に祈ろうとやって来たパドレの子供たちや協力者、友人たちで徐々に一杯になっていったのです。

このように祈りが長引いたので、当 時の地域代理であったペドロ・カシ アロ神父が、教会の様子を創立者に 伝えました。人々の注目の的になる ことを避けていた創立者は、グァダ ルーペの聖母との会話を中断し、こ の小さな不都合を取り除くことを考 えてくれるよう頼みました。翌日か らノベナ(九日間の祈り)の残りの 日々、創立者は小さな側廊二階席で 祈られました。そこは居心地が良い ところではありませんでしたが、少 し高いところにあり、聖母のご絵に かなり近く、また人々の視線にさら されることがないという利点があり ました。その場所で、聖ホセマリア は、グァダルーペの聖母への絶大な 信頼を持って、心の内を声に出して

聖母に打ち明けられました。ありがたいことに、創立者が聖母と交わされた会話をメモに残すことができました。その上、創立者は、そばにいた私たちにも、その祈りに参加するよう招いてくださったのです。

それは、神のみ旨に全てを委ねた、 神の子としての強い愛に溢れた祈り でした。同時に幼い子のような信頼 と粘り強い祈りでもありました。側 廊二階席でノベナを始めた5月17 日、数分間の個人的な黙想を味わっ た後、ロザリオ三本を一緒に唱える よう私たちに勧められました。各神 秘の後で、しばらく沈黙を保ちなが ら祈りました。ロザリオの終わり に、主が嘆願の祈りの必要なことを 強調しておられる福音書の幾つかの 場面を読まれました。ここで引用す るのは、その時の祈りのごく一部だ けですが、皆さんはすでに、少なく とも部分的に読み、黙想したことで しょう。

「イエスは私たちに、信じて祈るな ら願いは必ず聞き届けられる、に信いなります。主よ、私たちに信仰 が欠けることはありません。なにずなら、その信仰を御身が私たちでではないますから。この約束は、確実あ さいますから。価値を失うことははいるというのも、にいうのも、はとばいから。というのも、ことばは過ぎ去らないす。

す。私たちに耳を傾けてくださらな ければなりませんから。

聖マタイが『はっきり言っておく が、どんな願い事であれ、あなたが たのうち二人が地上で心を一つにし て求めるなら、私の天の父はそれを かなえてくださる』(マタイ18,19) と語っています。今ここに同席して いる人たち、また司式している司祭 と一致し、あなたの御母に捧げられ ている祈りに心を合わせて、嘆願の 祈りをお捧げします。強い信仰と、 あなたが聞いておられるという希望 をもって、私たちはあなたに語って います。また、地上のあらゆる場所 で人々があなたに語っています。そ れは、あらゆる身分の人たち、あら ゆる人種の人たちが、あらゆる言語 で、絶えず続けている祈りです。彼 らの祈りは私たちの祈りでもありま す。そして、主よ、あなたに、あな たの御母を通して、絶えず願い続け ます。

このような言葉を述べることで、というな言葉を述べることでというな話があることがある。 を、皆さんに感じて欲しいまたでをいか無味乾燥なったときにもできまれたちは弱くないまた何を願うではいるないで充分でするです。 かできるでしょう。」 [vii]

子供たちよ、ちょっと立ちがにおいているとなるといてのかがにないではないでいるというではないでいるというでいるというでいるというでいるというではないでいるというではないでいるというではないでいるというではないでいるというではないでください。義務を遂行するというではない。義務を遂行するというできない。義務を遂行するといるといるといるといるといるといるといるを遂行さい。

のようにするのです。兵士として、 しかし子供として果たすのです。何 を申し上げたらよいか分からなくて も、祈らなければならないことは分 かっていますから、兵士として祈る のです。しかし、同時に信仰を持っ て子供として祈ります。単に口先だ けのようであったとしても、主に今 願いましょう。どうかそのみことば が実現しますように。聞きいれてく ださるために、願っているのですか ら。これは一つの要求です。しか し、子供としての要求です。御子の 約束により頼んで、御父に祈るので す。そして私たちは、当然聖母に、 その全能の取り次ぎにより頼みま す。聖母よ、私たちの願いを聞きい れてください。| [viii]

私たち一人ひとりが、このように全幅の信頼をもって聖母に全てを委ねて、祈りたいと望み、そのように祈ることを学びたいと願っているでしょう。この時期に、度々思い起こ

ともかく、主が断定されたような山をも動かす信仰によって、全幅の信頼を持って祈らなければなりません。グァダルーペの聖母の前で、の立者が声に出してなさった最初があるはで、であれば、そのとおりになった。そうすれば、そのとおりになる』(マルコ11,24)。全て与えられるのです!私たちに確信を持たせるみことばです。神の御子が語られた

のです。御子は偽ることができません。そして、私たちには信仰が必要です。私たちはすでに信仰を持っています。だからこそ願うためにやって来たのです。しかし、更に、この願いと共に、主に申し上げます。

『わたしどもの信仰を増してください』(ルカ17,5)。何度も何度も、いつも繰り返さなければなりません。幼かった頃、母親にしたのといるうに。今ここで、一緒にいいて、お願いため、皆の名において、お願い陥れないる時も、話し出すことが難しいる時も、望んでいることを御身に語れない時も。

『だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる』(ルカ11,10)。聖ルカが記す通り、イエス・キリストが再び仰せになりました。私たちが忘れることのないようにと、このようにはっきりと仰せになりました。求める人は

与えられる、と。ですから、はいること。しかも、主を信頼りません。したはなりに私たちはここを見いしたのために、絶えず、ないです。私たちのはないです。私たちのです。私たちに代わって主にお話して、いるよう私たちをお導きくださす。 [ix]

母がどのように主を愛し、三位一体を愛しておられるかを使徒たちに分からせようと、高間における教会の始まりに、聖母の存在が際立つよう望まれたと確信しています。

5月の末頃には、聖霊降臨の荘厳な 典礼を深く味わうよう促されるはず です。教会の母、聖霊の神殿であら れ御方の下に留まりましょう。これ は聖霊の賜とその実りを頂くため に、常に最上の方法です。そして、 いつものように、皆さんにお願いし ます。私たちが父なる神、子なる 神、聖霊なる神との親密さをより深 めるため、私たちの仲介者であり、 全能の嘆願者であられる聖マリア に、皆さん方のことも含まれている 私の全ての意向のために祈ってくだ さい。

心からの愛情を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2010年5月1日

[i] ヨハネ・パウロ二世、1997年10月1日一般謁見でのマリアについてのカテケージス

[ii] 『教会の祈り』、寝る前の祈り、結びの歌(聖母賛歌)。なお、邦訳は『カトリック教会のカテキズム・要約』p.307

[iii] 聖ホセマリア、記事『ピラールの聖母』。創立者の帰天後、『Libro de Aragón』(1976年、サラゴサ)に掲載された。

[iv] ベネディクト十六世、2009年12 月31日大晦日の説教

[v] 同上

[vi] 聖ホセマリア、1970年10月

[vii] 聖ホセマリア、1970年5月17日 グァダルーペの大聖堂での祈りのメ モ

[viii] 聖ホセマリア、1970年5月17日 グァダルーペの大聖堂での祈りのメ モ

[ix] 同上

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2010nian-5yue/ (2025/12/10)